

**製品名: LZK ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13525**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	108kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAP3K13
別名	MAP3K13; LZK; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 13; Leucine zipper-bearing kinase; Mixed lineage kinase; MLK
遺伝子 ID	9175.0
SwissProt ID	O43283
免疫原	抗血清はヒト M3K13 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

**背景**

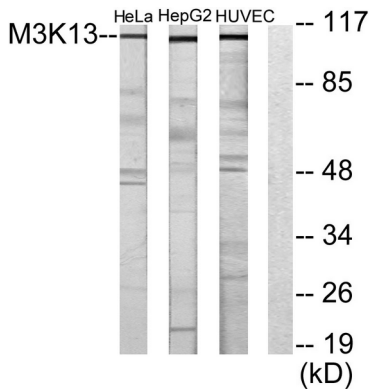
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン / スレオニンタンパク質キナーゼファミリーのメンバーです。このキナーゼ

は二重ロイシンジッパーモチーフを有し、そのロイシンジッパーモチーフを介して二量体 / オリゴマーを形成することが示されています。このキナーゼは MAPK8/JNK、MAP2K7/MKK7 をリン酸化して活性化することができ、JNK シグナル伝達経路における役割を示唆しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素制御: 自己リン酸化およびホモ二量体形成によって活性化。機能: MAP キナーゼキナーゼ MAP2K7 の活性化を介して JUN N 末端経路を活性化します。PRDX3 と相乗的に作用し、細胞質における NF-κB の活性化を制御します。この活性化はキナーゼ依存的であり、NF-κB 阻害因子をリン酸化させる IKK 複合体 (IKBKB 含有複合体) の活性化を伴う。PTM: セリンおよびスレオニン残基が自己リン酸化される。配列注意: チロシンとして翻訳される。配列注意: CDS の選択が間違っている。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼキナーゼサブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: ホモダイマー。ロイシンジッパーモチーフを介してダイマーを形成します。キナーゼ触媒ドメインを介して MAPK8IP1 の C 末端と相互作用します。PRDX3 に結合します。キナーゼドメインを介して IKK 複合体と関連する。組織特異性: 成人の脳、肝臓、胎盤、膵臓で発現し、膵臓での発現が最も強い。

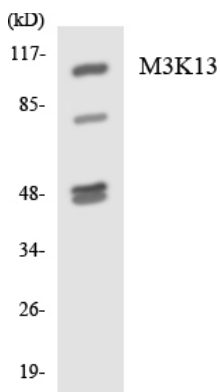
## 研究分野

MAPK\_ERK\_成長;MAPK\_G\_タンパク質;

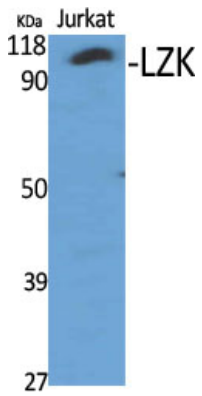
## 画像データ



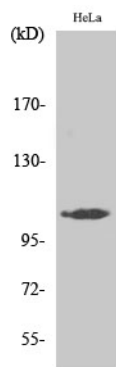
M3K13 抗体を用いた HeLa 細胞、HUVEC 細胞、HepG2 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



M3K13 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



LZK ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



LZK ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析